

# 越前市武生六中、祭りで企画

越前市武生六中の生徒が4日、地域の夏祭りでは野球ボールを使ったグッズを販売した。勢いよく流れる350個のボールを住民と見守り、世代を超えて交流した。



コシノさんのコラボ商品を紹介する企画展の一室には世界で評価を受ける食器類などが並び(杉本哲大撮影)

3年生70人のうち41人が、王子保地区夏祭りに合わせて初めて行った。地域資源の水路を使った大規模なイベントにしよう、アヒルのおもちゃの代わりにM号のボール

企画。県の「地域と進める体験推進事業」の一環で、6月中旬から準備を進めてきた。

王子保公民館前をスタートに、教員と生徒が協力して、

ら盛り上げていくまちづくりについて考えた。

市内の全19社会福祉法人が連携して今年2月に発足した地域公益活動推進協議会(愛称・笹ネット)が中核となり、関連団体やNPOが実行委をつくって初めて開いた。実行委員長の三村昌之・市社会福祉法人地域協議会長は「福祉の最新の知見を得て、まちを福祉からおこしていこう」と呼び掛けた。

講師の吉田学・厚労省医政局長(前子ども家庭局長)は、2016年の児童福祉法改正のポイントを「子どもの権利を明記し、家庭と同様の環境における児童の養育を推進する基本姿勢を明確にした点」と強調。法改正の理念に基づき、虐待を受けた子どもたちの支援策として養子縁組里親を優先する政策を国は推進していると説明した。

さらに里親養育の促進に向けて「児童相談所とともに核となる施設や組織は、地域によって特性がある。地域によるニーズの違いも踏まえ、さまざまな福祉のネットワークを横展開させて、(当地システム)を考えてもらいたい」と訴えた。

元厚労省老健局長の中村秀一・国際医療福祉大副学院長は「これからの医療、介護、福祉の動向」について講演した。

フォーラムには約250人が参加、それぞれが携わる福祉分野の課題を思い浮かべながら熱心に聞き入っていた。(高島健)

# 最新福祉学び まち盛り上げ

越前市でフォーラム



多くの福祉関係者が参加し、厚労省局長の講演に耳を傾けた。フォーラムは5日、越前市仁愛大

越前市内の社会福祉関係者が実行委員会をつくり、最新の福祉政策について学ぶ「福祉でまちづくり政策フォーラム」が5日、同市の仁愛大で開かれた。市民約250人が厚労省局長らから子ども、医療、介護の政策について学び、福祉が

多くの福祉関係者が参加し、厚労省局長の講演に耳を傾けた。フォーラムは5日、越前市仁愛大

ら盛り上げていくまちづくりについて考えた。

市内の全19社会福祉法人が連携して今年2月に発足した地域公益活動推進協議会(愛称・笹ネット)が中核となり、関連団体やNPOが実行委をつくって初めて開いた。実行委員長の三村昌之・市社会福祉法人地域協議会長は「福祉の最新の知見を得て、まちを福祉からおこしていこう」と呼び掛けた。

講師の吉田学・厚労省医政局長(前子ども家庭局長)は、2016年の児童福祉法改正のポイントを「子どもの権利を明記し、家庭と同様の環境における児童の養育を推進する基本姿勢を明確にした点」と強調。法改正の理念に基づき、虐待を受けた子どもたちの支援策として養子縁組里親を優先する政策を国は推進していると説明した。

さらに里親養育の促進に向けて「児童相談所とともに核となる施設や組織は、地域によって特性がある。地域によるニーズの違いも踏まえ、さまざまな福祉のネットワークを横展開させて、(当地システム)を考えてもらいたい」と訴えた。

元厚労省老健局長の中村秀一・国際医療福祉大副学院長は「これからの医療、介護、福祉の動向」について講演した。

フォーラムには約250人が参加、それぞれが携わる福祉分野の課題を思い浮かべながら熱心に聞き入っていた。(高島健)

多くの福祉関係者が参加し、厚労省局長の講演に耳を傾けた。フォーラムは5日、越前市仁愛大